

2016. 3. 30 森林立地学会土壤調査講習会

『藤沢で富士山起源の森林土壌を調査する』

森林立地学会では、日本森林学会大会に合わせてこれまで現地研究会やシンポジウムを開催してきました。今回、日本森林学会大会が開かれた藤沢市周辺は富士山起源の火山灰土壌が分布しており、会場の日本大学生物資源科学部キャンパス内でみられる厚い黒色土壌は世界的に有名です。そこで、大学構内に分布する黒色土壌を教材として、主に初心者を対象に森林土壌を観察・調査するための講習会を開催しました。

土壌調査講習会に先立って、森林立地学会の総会が行われました。総会において森林立地学会誌論文賞の表彰があり、森林総合研究所の小野氏と平井氏に丹下会長から賞状が渡されました。



土壌調査講習会では、始めに日本大学の隅田裕明先生から「日本の多様な土壌の生い立ちを探る」と題したご講演をいただきました。土壌の生成に関する広範な話題が提供され、参加者にとって大変ためになる内容でした。講演会には55名が参加しました。



昼食後、日本大学構内にある土壌断面を観察しました。2m もの厚い黒色土層の存在に驚きの声が上がっていました。富士山から供給された火山灰と人間による草原植生の維持により、厚い土壌が生成されたことが隅田先生から説明されました。



日本大学の演習林内で土壌調査講習会を開催しました。講習会では、土壌断面の作成方法、林野方式に基づく土壌断面の記載方法と、土壌試料の採取方法に関する実習を行いました。初心者から経験者まで、また幅広い年代の方が参加し、体を動かしながら土壌調査の進め方を体感していただきました。



今回は多くの方にご参加いただき、充実した講習会にすることができました。講演と土壌断面の案内をしていただきました隅田先生、各種手続きをしていただきました日本大学の上村先生、少ない時間のなかで土壌調査方法について要領よくご指導をいただきました講師の方々に感謝申し上げます。

森林立地 58 巻 1 号 29-31 ページに、土壌調査講習会について高梨妃来さんによる紹介記事が掲載されています。

(文責 事業幹事 志知幸治)